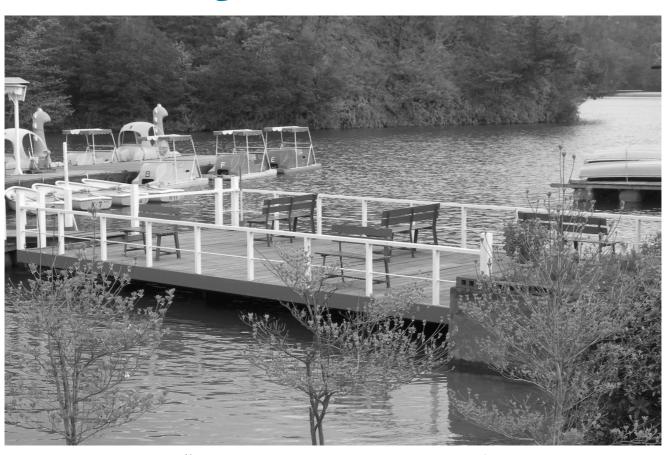
### 2010年 平成22年5月 第93号

# 又丟了だ iii Alice



遊歩道が改修され、行楽の人出を待つ蟠竜湖

### 次回定例会の予定【案】は

6月7日(月)~24日(木)です。

なお、正式決定は5月下旬の議会運営委員会 で行います。 議会事務局までお問い合わせ 下さい。 (231 - 0490)

#### 本会議場の様子を

#### インターネットでご覧いただけます!!

一般質問の様子の録画中継を行っています。 好きな時間に聴きたいところを見ることができます! 益田市HP内(http://www.city.masuda.lg.jp/) 「益田市議会」よりご覧下さい。

般 3 4 7 4 回  $\exists$ 3 月定 ま 条例 で 12 審 の例 議案 議 市 例  $\exists$ 14

また、市政全般にわたって、他請願2件、陳情2件、 意見書7件、講員提 議会は、 た案 間開 件、 決議 件 催され 3 人事議案3件、 の条例議会 月2 1 件、 子 算議: 日 19

◆ 編集・発行:島根県益田市議会 〒698-8650 益田市常盤町1番1号 TEL 31-0490 FAX 23-0920 Eメールアドレス gikai@city.masuda.lg.jp

広報から「市議会だより」を抜き取られると読みやすくなります。

## 3月議会の審議結果

議案番号	議 決 案 件	議決結	果	議決態様	
(市長提出議案)					
議第 9号	工事請負契約の締結について	可	夬	挙手多数	
議第10号	工事請負契約の締結について	可	夬	挙手多数	
議第11号	平成22年度益田市一般会計予算	可	夬	起立多数	
議第12号	平成22年度益田市施設貸付事業特別会計予算	可	决	起立全員	
議第13号	平成22年度益田市介護保険特別会計予算	可	决	起立全員	
議第14号	平成22年度益田市国民健康保険事業特別会計予算	可	夬	起立全員	
議第15号	平成22年度益田市老人保健特別会計予算	可	夬	起立全員	
議第16号	平成22年度益田市後期高齢者医療特別会計予算	可	夬	起立多数	
議第17号	平成22年度益田市簡易水道事業特別会計予算	可	夬	起立全員	
議第18号	平成22年度益田市国営土地改良事業特別会計予算	可	决	起立多数	
議第19号	平成22年度益田市市有林事業特別会計予算	可	夬	起立全員	
議第20号	平成22年度益田市造林受託事業特別会計予算	可	夬	起立全員	
議第21号	平成22年度益田市匹見財産区特別会計予算	可	夬	起立全員	
議第22号	平成22年度益田市益田駅前地区市街地再開発事業特別会計予算	可	夬	起立多数	
議第23号	平成22年度益田市農業集落排水事業特別会計予算	可	夬	起立全員	
議第24号	平成22年度益田市公共下水道事業特別会計予算	可	夬	起立全員	
議第25号	平成22年度益田市駐車場事業特別会計予算	可	夬	起立全員	
議第26号	平成22年度益田市土地区画整理事業特別会計予算	可	夬	起立全員	
議第27号	平成22年度益田市水道事業会計予算	可	夬	起立全員	
報第 3号	専決処分の報告について	報	告		
議第28号	平成21年度益田市一般会計補正予算第10号	可	夬	挙手多数	
議第29号	平成21年度益田市介護保険特別会計補正予算第3号	可	夬	挙手全員	
議第30号	平成21年度益田市国民健康保険事業特別会計補正予算第4号	可	夬	挙手全員	
議第31号	平成21年度益田市簡易水道事業特別会計補正予算第5号	可	夬	挙手全員	
議第32号	平成21年度益田市市有林事業特別会計補正予算第3号	可	夬	挙手全員	
議第33号	平成21年度益田市造林受託事業特別会計補正予算第3号	可可	夬	挙手全員	
議第34号	平成21年度益田市匹見財産区特別会計補正予算第3号	可	夬	挙手全員	
議第35号	平成21年度益田市益田駅前地区市街地再開発事業特別会計補正予算第3号	可	夬	挙手全員	
議第36号	平成21年度益田市農業集落排水事業特別会計補正予算第3号	可	夬	挙手全員	
議第37号	平成21年度益田市公共下水道事業特別会計補正予算第4号	可	夬	挙手全員	
議第38号	平成21年度益田市土地区画整理事業特別会計補正予算第3号	可	夬	挙手全員	
議第39号	平成21年度益田市水道事業会計補正予算第3号	可	决	挙手全員	
議第40号	益田市の休日を定める条例等の一部を改正する条例制定について	可;	夬	挙手全員	
議第41号	職員の自己啓発等休業に関する条例制定について	可;	夬	挙手全員	
議第42号	益田市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例制定について	可	決	挙手多数	
議第43号	特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を 改正する条例制定について	可	決	挙手全員	

議案番号	議決案件	議決結果	議決態様
議第44号	市長等の給与に関する条例の一部を改正する条例制定について	可 決	挙手全員
議第45号	教育長の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部を改正する条例制定について	可 決	挙手全員
議第46号	市長等の給料月額の減額支給に関する条例制定について	可 決	挙手全員
議第47号	益田市職員給与に関する条例等の一部を改正する条例制定について	可 決	挙手全員
議第48号	益田市介護保険条例の一部を改正する条例制定について	可 決	挙手全員
議第49号	益田市立飲料水供給施設設置及び管理に関する条例及び益田市水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例制定について	可 決	挙手全員
議第50号	益田市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例制定に ついて	可 決	挙手全員
議第51号	益田市立多目的集会所設置条例の一部を改正する条例制定について	可 決	挙手全員
議第52号	益田市匹見過疎バス代替運行に関する条例の一部を改正する条例制定に ついて	可 決	挙手全員
議第53号	益田市立水防センター設置及び管理に関する条例制定について	可 決	挙手全員
議第54号	益田市立多目的集会所の指定管理者の指定について	可 決	挙手全員
議第55号	益田市立保育所の指定管理者の指定について	可 決	挙手全員
議第56号	益田市立児童館の指定管理者の指定について	可 決	挙手全員
議第57号	益田市立老人ホームの指定管理者の指定について	可 決	挙手全員
議第58号	益田市立特別養護老人ホームの指定管理者の指定について	可 決	挙手全員
議第59号	益田市立デイサービスセンターの指定管理者の指定について	可 決	挙手全員
議第60号	益田市立匹見高齢者生活福祉センターの指定管理者の指定について	可 決	挙手全員
議第61号	辺地総合整備計画策定について	可 決	挙手全員
議第62号	副市長の選任について	同 意	選挙執行
諮問第1号	人権擁護委員候補者の推薦について	異議なし	起立全員
議第63号	行政情報公開不服審査会委員の任命について	同 意	起立全員
議第64号	財産の譲与について	可 決	挙手全員
(議員提出詩	<b>衰</b> 案)		
議第65号	益田市議会会議規則の一部を改正する規則制定について	可 決	挙手全員
議第66号	核兵器の廃絶と恒久平和を求める意見書について	可 決	挙手全員
議第67号	日米間におけるFTA(自由貿易協定)に関する意見書について	可 決	挙手多数
議第68号	安心・安全な公共事業を推進するため、国土交通省の事務所・出張所の 存続を求める意見書について	可 決	挙手全員
議第69号	地域医療を守るための早急な施策の確立を求める意見書について	可 決	挙手全員
議第70号	地域医療を守るための早急な施策の確立を求める意見書について	可 決	挙手全員
議第71号	地方バス路線の確保に対し、国による法的整備を求める意見書について	可 決	挙手全員
議第72号	地方バス路線の確保を求める意見書について	可 決	挙手全員
決議第1号	萩・石見空港利用促進に関する決議について	可 決	挙手全員



平成21年度一般会計・各特

別会計の補正予算を議決

## 第474回 定例会

# 計予算・各特別会計予算と 平成22年度の益田市 こんなことが決まりました 例

予算 0万円 総額は、 日の2日間に渡り審査 決しました。 たしました。一般会計 別委員会で3月 全議員による予算審査特 については、 3 の議決が行 月議会では、 般会計予算 で原案のとおり 2 4 4 議 億7、80 15 長 わ 日 · 16 れまし を除 の審 年 Š 議 度 可 0

水道 各常任委員会で審 ず 算など16の特別会計と 21 確定等に清算が主な 計 年 れも可決されました。 事業会計は、 設貸付事業特 一度の一 の補 正予算は事業 般会計・特 重査され 所管の 別会計

# の 制

# 支給に関する条例制 市長等の給料月額 の減 定

田市議会広報広聴委員会 議会を推進するため

١, カット)をする条例制 減額支給 え市長、副市長・教育長の 副市 長・教育長20% (市長30%カッ 定 ま

# 関する条例制定 職員の自己啓発等休業に

ての制度を導入する条例

# び管理に関する条例制定 益田市水防センター設置及

伴う条例制定。 水防センター の設置

館

## 条 例 の 部改正

例の 益田市 及び費用弁償等に関する条 一部を改正する条例制 議会議員の議員報

めるもの

や、

# 額

厳しい財政状 、況を踏

整の場に追

加

副委員長

員

河野 中島

利文

員

長

守勝

会議規則の協議または調

(委員は別表のとおり)

を

制定。 自己啓発等休業につい

# 指定管 理者の指定

益田市多目的集会所久城会

久城 西自 沿会

# P社会福祉協議会P立匹見保育所

益田市立匹見保育

益田市立道川児童館

市社会福 祉協議会

# 定についてなど12件の条例 一部改正を可

与を5%程度の減額を定 長など特別職の報酬 議員及び市長や副 酬審議会の答申を受 開かれた市 給 市 益 田

け、

# スセンター 益 田 市立

センター 益田市立

## 工事 請 負契約 の 締 結

弘中 井藤 久城 卓雄 英樹 章雄 恵治

大久保五郎

### 益 (局舎・システム工事) 田市 地 域 情 報通

(美都・匹見地区整備工事 富士 建設工事共同企業体 クシオ・協 通ネットワー 和通 ク 信

## 財 産 の譲与

ソリューションズ

Ш

優美

所 延 譲 種 床面積 渡相手方 在 地 益田市· 多目的集会所 2 3 9 · 8 6 土井自治会 土 井町 m

# 益田市立老人ホーム春日 市社会福祉協 議 荘

ム美寿苑・もみじの里 市社会福祉協議会 市立特別養護老人ホ

# 美都デイサー Ė

の益

市社会福祉協 議 会

市社会福祉協議会 一匹見高齢者生活 (ふれあいの園

#### 副 市 長

信

基盤

石 Ш 保 氏

# 人権擁護委員候補者

澄川 野村 神 良友 邦子 八紘 氏氏氏 氏

### 委員 行政情 報公 開 不服 審査 会

石 橋 靜 子 氏



# の

上の特別 法律に基づく辺地総合整 備計画の策定 辺 地 別処置 整備 に係る公共 0) 等に ため に関する 的施 0 財 政 設

護委員 ました。 ずれも原案どおり可決 員の任命については、 政情報公開 副 市 (候補 長 0 者の 不服審查会委 選 任 推薦、 人権 11 行 擁

# 常任委員会の視察報告

#### 総務常任委員会

視察場所 (兵庫県篠山市、大阪府大阪狭山市) **視察日** 平成 22 年 1 月 1 8 日 ~ 19 日 視察調査内容

#### 篠山市【篠山市議会による篠山再生計画に係る行 財政改革の取り組みについて】

- ○篠山再生計画は、行財政改革編とまちづくり 編の2本立となっており、目指すべき将来像 が具体的に示されている。
- ○市議会行財政改革調査特別委員会では、再生 計画124項目の集中審議を行い、項目毎に評 価をまとめ、市長に提言をしていた。

#### 大阪狭山市【市民協働のまちづくりの取り組み】

- ○中学校区毎にまちづくり円卓会議を設置し、 それぞれに上限 500万円の事業提案権を付与 している。
- ○「まちづくり大学」や「熟年大学」などの生 涯学習の講座受講者がまちづくりの原動力と なる仕組みをつくっており、実際に講座修了 者が研究会やNPOを立ち上げていた。
- ○市民活動支援センターは熟年大学修了者によ るNPOが管理しており、市民団体の活動が 積極的になされていた。

#### 建設常任委員会

**視察場所**(千葉県木更津市、茂原市) **視察日** 平成 21 年 11 月 5 日 ~ 6 日 視察調査内容

#### 木更津市【土地区画整理事業について】

- ○区画整理事業は昭和38年度よりスタートして おり、現在23組合の事業が完了している。
- ○ほとんどが組合施行で行政はわずかにかかわ るのみである。
- ○公共下水道とは一体化していないものが多く、 今後は既に事業を済ませた地区の公共下水道 事業が必要となってきている。

#### 茂原市【道路整備について】

○千葉県の圏央道が都心から半径40~60kmの 位置に計画され、県内の主要都市から県都千 葉市までの到達時間を1時間にする東京都ア クアラインに接続している。環状道路として 1都4県の連絡道路、延長300㎞(県内95 km)の自動車専用道を建設中であった。

#### 経済常任委員会

(東京都 J A 全中・岩手県葛巻町) **視察日** 平成 21 年 11 月 10 日~ 12 日 視察調査内容

#### 全国農業協同組合中央会

#### 【政権交代後の農業政策の方向性について】

○いまだ戸別所得補償制度も、見えていない状 況にある。政権が変わっても、生産者にとっ て意味のある農業政策を政府に積極的に提案 していきたいと、担当者は訴えていた。

#### 岩手県葛巻町

#### 【バイオマスとクリーンエネルギーについて】

○1999年にエネルギービジョンを掲げて、 天・地・人に関わる、一貫した体系的なエネ ルギー政策を実施している。「天は、風力・太 陽光、地は畜産糞尿、森林、水、人は、豊か な風土と文化のもと人材を育成する。| を表し ている。"ミルクとワインとクリーンエネルギ ー"の町として、全国に知名度を上げている。 町民をあげた取り組みに大きな意義を感じた。

#### 文教厚生常任委員会

視察場所 (茨城県牛久市、長野県駒ケ根市) 視察日 平成 21 年 11 月 17 日~ 19 日 視察調査内容

#### 牛久市【健康づくりについて】

- ○特定健診、がん健診の取り組みでは、毎年2 月に未受診者に対し、勧奨ハガキを送付し受 診率向上に努めている。
- ○毎年市民アンケートを実施し、市民の満足度 を調査。内容は「住み心地の度合|「行政サー ビスの水準が納めた税金に見合っているか」
- ○医師不足の悩みは本市と同じ。特に産婦人科 医が不足。

#### 駒ヶ根市【子ども行政の一元化について】

- ○保健、福祉、教育等子どもと係わりの深い分 野を一元化し「子ども課」を設置している。
- ○子ども課設置により子育ての基盤整備ができ、 政策立案、調整推進の司令塔が確立された。
- ○職員にとっては、仕事の幅が広くなり事務が 煩雑となったが、市民サービスの向上にはつ ながっていると感じた。

### みなさんからの請願・陳情審議結果

#### 3月定例市議会受理分

請願番号	件名	提出者	議決結果	議決態様
1	新選果施設導入に伴う国庫補助残金 に対する助成について	西いわみ農業協同組合 代表理事組合長 橋本 正嗣	採択	挙手全員

陳情番号	件名	提出者	議決結果	議決態様	
1	安心・安全な公共事業を推進するため、国土交通省の事務所・出張所の 存続を求める意見書の提出について	国土交通省全建設労働組合 中国地方本部 執行委員長 末永 敦 外1名	採 択	挙手全員	
	益田市立学校給食センター (仮称)建 設整備事業基本構想の見直しについて	子ども達の学校給食を考える市民の会 代表 原 真帆子	不採択	挙手多数	
2	学校給食センター建設整備事業につり、老朽化した現施設の早急な整備がって、基本構想に沿って事業を進める。なお、市民に対し、十分な説明がな説明会を開催し市民に対して十分な説明	望まれ、これ以上計画を延期するこ 必要があると判断し、本件については されていないことによる不安や疑問	ことはできない。よ は不採択と決した。 閉の声もあり、今後		
3	鎌手中学校屋内運動場の改修について	鎌手中学校奨学会 会長 田中 宣隆 外2名	採択	挙手全員	

## 継続となっていた請願の審議結果

請願番号	件 名	提 出 者	議決結果	議決態様
7	日米間におけるFTA(自由貿易協 定)に関する意見書の提出について	益田農民連 代表 田原 寿夫	採択	挙手多数

### 今期議会で可決し関係機関に提出した意見書

- 核兵器の廃絶と恒久平和を求める意見書
- 日米間におけるFTA(自由貿易協定)に関する意見書
- 安心・安全な公共事業を推進するため、国土交通省の事務所・出張所の存続を求める意見書
- 地域医療を守るための早急な施策の確立を求める意見書(国)
- 地域医療を守るための早急な施策の確立を求める意見書(県)
- 地方バス路線の確保に対し、国による法的整備を求める意見書
- 地方バス路線の確保を求める意見書



#### 事、 制 ょ 問 4 0 企 さ 力 課 を $\exists$ ŋ 0 題だ。 月を迎えた副 強化 b せ 画 ょ 早く 年 る 部 務 早 育 民 Vi 長、 サー -急にす ため 部長 度を迎えるに 部 することが 市 空 庁 長 政 ビス が兼 13 教 席 内 運 \$ 育長が 兼務の の組 正 0 べ 営 いままで 0 へきだ。 一常に 市長 13 向 最 織 は、

人

機

経

常収支比

率

%

高 90

率 未

益田市

材

30 満 問

立

基

金

残

比

力

年

計

画

で

達

,成さ

せ、

危

% 以

上を22年

度

から

5

兼経

19

年

度

から

0

財

政

う

市 長の政治姿勢を問 代表質問

(創明会) 良徳 議員 寺井

は、 は、 たりどうか 部 答 13 調整している。 長、 ただきたい 今議 玉 副 より 市長 教 育部 会に 派 人 0 長に 提 事 遣 定案させずについ を 経 営企 0 お 17 願 7 画 7 7

再建計で度以降の は、今年度立 早く達成したい あ進 答 常問し **产建計画** 掲げた んで ŋ 事 お詫 態宣言を受け 当 0 13 初 0 びす な説明 が、 財 度末まで。 進捗状況は。 政 政 る。 0 新たな財 指 改革プラン 0 た状 標を目 が 実態で て、 22 年 況 日 政 標 策非 で

大

体

づくり 専 集 答 指 問出化 答 い展 1 0 12 てる意識を共有し、 が。 より 開設につ 望を F 約 した産業支援センタ しながら と人材育成をキ 向 0 地域全体で産 4 地 開かな 新事業の創出を H 域 事 月1日より、 業活動 民 経 いて問う。 進める。 間 統 済、 0 合産業 力を引 کے 地 一業を育 域 41 「ひと 対 1 情 活 It 化 ワ 報 1 目 き 性

うた 門 的 め 総合的な支援 市役所 1 階 0

てい たの 人乗りから行 答 る 問 常に が 0) . る。 か。 ح 機 事 利

غ

な

あ

0

ず だ。 現状 行政 前 K 0 動きが 至る として、こ ま でに あ る は 当

当部局 うなのか。 として必要だ。 丰 ヤッチすること 最大限の責務 の体 制 はど 担

答 要なことであ 所等関係機関 定期的に全日空本 報キ 収 集を図 支社、 早 ヤ 11 段階で ツ ノチは重 県事 る。 0 る。 務 0

に問

た行

政

サー

ビスを

来

わ

0

7

安定

的

供 将 平成

22

年

度

問

う

新たに開設された産業支援センター

室西 のと 側 0) ころ 旧 高 に設置 齢 者職 を予 業相 定談

まちづくり 歴史文化を活

か

た

化の険

活力と

L

地

域

性間

工

IJ

ア

脱 携

却

Ĺ

と財

政

健 連 を

全化を

両立

i 活 民

#### 萩 石 見空 港 の 現 状

は

市政のここが知りたし

市民の声を代弁する

般質問の掲載について

·般質問の記事は、決められ

た文字数のなかで、議員本人

が要約し掲載しています。な

お詳細については会議録をご

覧下さい。

か 材 厳 用 わ 5 れ L 0 変 る。 更 頃 56 い前 入乗 *☆*が7 発表 中 上 現 h 大阪 が 行 月 向

1

H

7

O

74 H 路

0 1 月 末 頃と 聞 13

した素早 17 情報を

施政 方 代表質問 針

石田 米治

要があるが その た 中 み い **問** ま 世 の 着 墓 現 ジョン く進 川周 を 辺 ため 中 整  $\Diamond$ 着 なけ 備に 策定をして 心に 歴史文化を活 づくりを一 地 々と進んで 在 が K 関 整備 ればならない。 向け 係等 寺 b 環境 0 て、 移 計 0 日も 取転 画 整備、 11 く必 のビ 益 かし n る。 田 早 組伴

る。 基 地 会で検討する。 本構  $\overline{X}$ 整 益 22 備計 想の 年 田 度 Щ から を中 画を策定委員 策定に着手す 心とした 歴史文化

(伸政会) 議員

問

そ

0

額

財

指

対し

てどの は、

ょ 政

反

映

7

e V

未実施 中改革。 政改: n でき 必要と考えるが。 組 実 革 Zx で る プ 推 と 0 あ O行 ラン 項 進 課 ŋ 政 計 目 新 題 基 た 画 0 0 で 行 盤 なる行 あ 早 評 あ 財 O一急な取 策 る。 価 強 政 改化 定 書 集 0 革は

民間 目 危機感を共有し市 経 行 営 政 で 0 基 行 上 盤 財政 で 0 重 強 主要であ 改革を 化 は Á

#### 今後 う の 財 政 の 見通 し を

担将

加

するの 力点をどこに 止政将問 0 来に 田舎まち 状 況 をど わ 入 後 た 増 0 0 0 づ 加 . 置 き くり ように受け 7 財 が 見込 政 厳 を 運 L 営 推 13 8 財 進 流 0 ず

る

が、

みを行う。 セン 事は で 危 集中 ター 感を 大事 行財 人 投資を行って であ 共有 材 を 政 改 設 育 革を行 る。 ĺ 成 置 産 0 L **烂業支援** 民間と 取 人 う上 13 n < 組 づ

12 抑え た が 公 債 費 平成22年度 益田市水道事業会計予算書 0 増

平成22年度益田市の予算

来負担

比

率

画

は

うに 答か。

伴う財政支援が ば財 来にわ 建設、 事業や学 増となる。 財政 政 たっ  $\exists$ 計 造 校給 赤病院建 画は。 が 地 7 ?控えて 硬 食 域 市 直 セ 情 民 化 設 ン 報の タ 負 VI K 通 百

信

税措置( 財 年 方債を活 疎 答 - 度の 政運営を行う。 債や合併 市 元利 債の 0) あ 用 発 し、 特例 るも 僧還: 行 長期 債等 金に の中 0) や、 交 で 的 0 付 地 過 後 な

総 13 問 担 わ れたる自然 する 債 務負担 いくらか。 行為 治体 行 で 為は Oあ 債 る 務を 将 が 来

+ 兀 平 億円である。 成20年度決算 で

問

市

債

0

発

行

は

Ħ

標

額

債 務 円 で 10 2 平成20年 質公債費率は平成 は十二億 影響する債 担額は %であり影響する 度 0・1%であ 決算 ポイント、 度決算で 四千七百 では 務負担

20 実

19

影響がある。 万円 で1:6 ポイント 億九千 0 五.

# 独居老人対策につ いて

問う。 老人対策につ びに核家族化に伴う独 急速に進 で 5 問 内 23 独居老人は3、 47人で 齢 %の現状 者人 む高齢化社会並 30 2 %  $\Box$ いて考えを は1 6 である。 31人 方5、 その 居

要援護者システム 答 や緊急通 安 (解消 安否 を図るため、 報装置・ 確認体制 の整備。 災害 0 整 地 時 備

> 係機関 務 独居老人対 問 域 や相 包 括 地 との 支援 域 談 情 窓 連携を行う。 策に 報通  $\Box$ セ ン  $\mathcal{O}$ 対し 周 タ 信事業で 1 知 しての と関 0 業

う。 テレビ ステム、 全 対象とした高齢 答 計 安心生活 他 等充 地 高 域 活サポ 分に で独 齢者の見 者等の 居老 検討 Ì こを行 行守り トシ 人を 安

ない

か。

万 額 n は は

する対 ず自宅待機 問 介 策を問う。 護 施 設に 0 高 入所 齢者 に対 出 来

は地地 査を実施してい 次整 必 一備を 域 要な施設 0 状 行 況 13 にお 将 来的 実態 13 7



代表質問(清流会) 久保 正典 議員

# 益田市の経済対策を 問う

大きく によ地 り、 落ち込んで 域 0 本市 経 済 0 活 税 動 £ V 収 0 る。 は 停

働きかけ

ま

産業支援

セ 7

ン

タ

1

滞

問

中で、 ては、 影 Oためにも 13 O拡大をはかる な ところ 興 n 61 施 は 公共事 玉 地 て 当面 限られた財源 や県 域の 0) b 11 う効果は る。 重要だ 雇 の公共事 べきで 本 他 用 0 減 市と 表れ が、 の産 確 保 b は 業 0 0 L 7 今

ると、 県内 でこ かな 経済 尋ねたい。 ているの (事業投 信 圏の 0) 0 0 頼できる 益 ような格差 隣り合った自治 なぜ、 約3分 か。 資 田 額 市 その は、 デー 経 同 0 済 見解 ...じ島 タに が 1 巻 浜 生 で 田 0) じ 根 L 公 ょ を 市 体

は、 答 ζ Λ, 13 を支えて る。 事 道 子業がこ 傾向 公共 体に 違 0) 面 建設 る。 浜 13 積 にあ 事業 によるも 備 遅 田 0 13 など種 違 ると認 L 0 n 巻 充実 をと 域と るも 地 か 13 は P 域 減 を国 の格 5 0) 々 Ш 識 0) 0 少 کے \$2 他 0 陰 L 経 0 ĺ ょ 思 条 高 差 7 済 公 7 P 0

機 動。

能

0)

確保活動。

療

4

圏域に必要な医

0

共

有

化を図

る。

動を行う。

③医療を守る

L

7

医

師配置の要請

シンポジ

ウム 開催

署名

域

医

一療勤

務の義務化

を要

目標達成に努め

②県や大学医学部

たい。

① 国

[に対し]

医

師

0 地

画に沿

入社予定で、

こった数値

へ 科 問

0)

医

師

2名が浜田

の方

度益田養護学校

日

赤

病院

0

脳神

経

外

と

いう

が、

のように

0

卒業生3名の

処さ

れるか。

⑤広島

Щ

口県との医

療体制の連携構築を行う。

対

7

の安全性

確

兀

見

0

方々の脳

障が

と考えている。 振 0) ち (興を図 事 上 業 げ て新 13 取 0 り組 産業創 7 いきたい み、 出 地 な

隊、

県立

央病院等と連

した

状

況によ

1)

13

0

11 重

7

は、 中

篤

な

頭

部 H

等

赤や救傷の外傷

急

義生 議員

防災ヘリを要請する。

## 地 域 対



代表質問(市民クラブ) 松原

#### 問 障 が 養護学 者 福 校 祉 卒業 に つ

61

て

きのこハウスには されるか。 労支援はど 答 自立には不可欠である。 就労支援 0 が障 ように 生 が 対 来 13 0 车 者 応 就

培を一 場にシ いを持 大きい にされ 場として拡大し は 問 いえ所得を手 最 0 般就労の イタケ栽 た意義は って働く 低 生きが 賃金と

> に験し 討 していきたい。 家の た。 71 奥 ウス 出 雲町 利 用 0 よう b 検

## 益田 の 新築移転につい 市立学校給食セン 7

見 答 げ V, V 問 コ る。 ストを下げるかという られるの 直 や質問をいただい 一営で い財 多く どのように 民 と 政状況でいかに からさまざま 0 13 保 う声 護者 が 取 か 出 ŋ 5 意 あ 7 ぜ

県立益田養護学校卒業生の就業先確保に全力を つに統 として、 理念のもと、 給食を提供してい では難 生管理基準に る。しかし、 - を建 合した給食 L 美都 61 備す と吉 委託

方である。 民間 このような基 民間活 できることは 力を活用 本的 す 民

営も 点な 一営として決定した。 0 には 7 け な 0 食 0

公 運

タ う施設に 給食衛 委 託 なら、 L 生管理基 って、

代表質問(緑風会)

良二

議員

野村

法は、 思う。 答 設に改修するには民の 校給食の提供に努めて 間業者は安全・安心な学 分だけ建替えるという し、そして今の吉 さいと言われるの のとこへ持 方法と思うが、 現在委託 少しでも安くする 会社も努力して ってきてく 学校給 適合する 業者が どうぞ 準に 田 が 食 筋 0 沿 13

セン 先は · く基 田 を

うまく 関係の 職員と 12 皆さん等に自分の考え、 職 答 に感じておられるか 痛 感して、 難しい 員 いを伝えることがいか 市 議員、 では 長就任以来、 大切さをどのよう 0 いか いる。 かということを 相 互理解、 な 施策や事業は マスコミの 61 0 市 市 信 民 頼

分の ると そう 通 互 思っ 考えを伝えて じ 理 いう中で、 解は大変重 て、 7 L 13 る。 つか 職 一要で < ? ŋ 部 員 کے 課 لح

長あ

を

0

相

よう

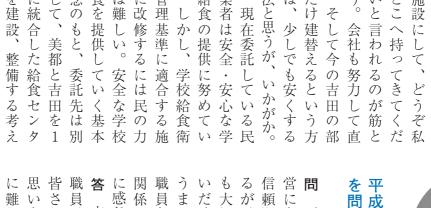
努

る。

員

لح





が、

との り、

信

関

係

で 職

あ 員

市

長 頼

の思

頼

関 あ 平

係

もちろん

であ

たっ

市 0

民 市

と

0 運

成

22

年

度

政



テ O0 ハイング 直 接対話のランチミー や市 長講 話を 行

# 教育方針 につ (1

育に るも 学 問 で 低下 の原因として考えられ 取り のを示して、 するに至ったの 市 組んでいただき 力がなぜここま 0 児 童 学校教 生 徒 か。  $\mathcal{O}$ 

し 教育 原因、 することができていなり前のことを当たり前 さらに保 0 は 点で問題がある。 って、 問 、家庭では子どもの学教員の教科指導力の問 前のことを当たり前 へ の の原因となっている。 中 慣 学力、 題 弱さがあり、学力 高等、 関心の問 言で言うと当 地域では 読書習慣 育 所、 家庭、 力 公私間 0 幼稚園 学校 題。 学校 の定 低 地 下 そ 0 域 P 着 で

> べきだ。 をし、学 行 13 くとい 0) なら った 土 大胆 日も学校 策をす な議 論 12

しても、 答 0 会を発足させるの いう声はある。 中で大いに議論したい。 先生 ある。いだからも忙 益田 市教育審議 ずれいしい で、 そ K と

# 学校給食のあり方を問う

どの て、 問 7 いるの 学校給 ように位 食 育 及び中 置 付 食育 it 13 6 をい

所、 を培 及ぼし、 徳 課 に取り組 運動とし 今こそ家庭、 育 食育は、 答 人格形成に大きな影響を 題。 置付けられている。 んでい 地域等を中心に 子どもたちに 1, 今日まで 心身 教育 育に て、 豊かな人間性 健全な心と身体 んでいくことが く基礎で 学校、 食育の の成 0 加えた食 几 0 1本柱と 長 対 知 あ 推進 保 围 及 す 育、 n 民 を 育 る

ح

ろ。 であ

市

方も考えられない 子の しさを生かすためには、 É Iを設け とか、 る運 家 庭 営 0 0 美

弁 味

あ 当を作ろう」との動きが O食 答 会等で検討したい。 仕 いては、 を」との動きと、 日を設け 全国では 弁当 小・中学校長 の 日の 親子で「 朝 が拡大に 食 弁当 0 給 弁



議員 井藤 章雄

場にするには、 成と能力が発揮できる ナスである。 民にとって大きなマ b) 職 役所 状況は 早 員の 期退 最 は 、早期 やる気の も重要な 何 行 退職 が必 政 0 要 職 醸 イ は 本

考える。

問

市

配

の

員の

員 要と考える。 研修や人事 まず、 あ その 評価制 13 <u>خ</u> Ĺ つ が 度 で 職 必

と考えるか。

す、

業時間が

足らな

0

あ

n

方、

0

なら先生の数を増 校の先生が忙し過

> することである。 事である。 を得ながら切 さまざまな 磋 琢 職 磨 員

**問** いて市日 職 いるか。 原因を市 声 を耳にしている。 民 員 式からいろいろな見の早期退職につ 長はどう考えて この

いるの どうあるべきだと考えて それぞれあ 市長の役割は何か。 一げる訳にはいかない。 行政の 早 期 退 ŋ トップとして 職 0) 逐一申 理 また、 由 は、

民の代 るのが 判断 立場であ 常に最終責任を負 行政のトップ 市 表として 評 る。 価 長 判 0 仕 断 ま 政 た市 を 事 は と す策 う

引き揚 館 問 と考えるがどうか た 旨 いろな事 長 の話 公議 が 先 た対応 7の声 げ Н )を検 が出 地 で を十 情 域 市 公 があ K た 討 民 کے 分 は L 員 館 る。 い 聞 た のの

> 考えでい に引き揚げるのでなく可 きることは 能 なところから実施 でいる。 基本的には、 地域でという 方的に強引 地域でで する

#### 生徒 幼稚 の 袁 窓 口一元化 保 育園 ع 児 童

担 る 幼 問 児期 当 子どもの ビ スの 駒 を設 から 制 ケ 、塔機能を持 向 根 上 設置し、 政策を一 青少年期 市 0 ように 無駄 市 本化 の削 った 民 13 + 至



西益田地区ボランティアハウスの子どもたち

んで

教育 いるのか。

0

振

興や教育 審議会は、

1効果を

 $\mathcal{O}$ 

るフレッ

シュな方を

12

ついては、

教育

に理解

お

願 あ

いし

たい

が選考は進

高

るための諸課題に

0

7

審議をお願

いするこ

なる。

現 を在、

フ

V

を進めている。

な方を考慮し

なが

減に 取 b 組む考えは

答 国の動向な 分後、本市独立 は組みづくりが がらは での、生 を検討する考えはない 国に先んじて体制 編 編 の重 の議 要であ 0 向 国の動向を見ながら 慎重に検討したい。 礎を培う重 乳幼 動向等をも注 国においても省庁再 論がされているが にもなる。 づくりができない 本市独自の新しい した取り 児期 ŋ 力市に 民サ は 要 人 組みは うくり 省庁 へな時 視し 1 間 ・ビス 形 か。 再 期 な

# の地 域主権に 政策立案機能の強化 対応するため

間 政策立案をする国から派遣していた るのか。 ために、 調整だと思う 答 に問 0 番困難なの 人材でそこ 関して、 政策立案をする上で、 今後は、 本 市 経営企画 0 どう思うか 政 が可 が、 は、 その 策立 、ただく。 能にな 国から 部課 部長を 強化 案能 0 力

とを検討している。 人材も同時に配置 答 庁内を良く 把 握し するこ た

れることと思うが、委員 討は教育審議会で議論さ

今後、このような検

議会の **問** 議会 る環 う考えているか 答 化 2元代表制 あ 会 整備に り方、 0 0 議会事務 政 策提 能を 0 0) 案 強 局 b  $\mathcal{O}$ 化

恵治

議員

久城

ンク"的な う。 織になれば良 考える。 問 化することは必要だと思 11 ただきたい。 本市にも、" 議会側からの 官民協働した組 な組織が必要と いと思うが 議会を強 シンクタ 提案を

会のあ 答 民・住民 問 定する過程におい 今後検討していきたい。 いかがか。 や、 必要だと考えて 政策立案から政策 各種検 ŋ から 方に問題が 以討会 の意見の て、 13 審 あ る。 る 議 集 市 決

てど でき と、 強す 選に偏 うガイドラインを庁内 も思われる部 と思う

りがあ

かに、これ

13

かが

か。

7

かな

0

0

あ

n

0

今後は偏

りの 分も った

ない ある にように まで人

0

で ょ

つくり、 活かしていきた

# 育成と組織の あ ij 方

方大事であり、 0 問 めていきたい。 不可欠と思うがどうか。 信頼関係を構築する事が しくみ 仕 組みと中身と、 材 をつくる前 育 成 や人 同 時に 事 評

進 両

61

て

学校給食

センタ

Ì

に

使うの 方法に 問 ているか。 事業仕 か。 ついて、 また第三者を 分けの どう考え 目 的 لح

目

的

は、

事

務

事

0

見直 ためである。 にも協力を願いたい。 めて検討中である。 実効性のあるものにする 増を実現する上 退職 L 員半 と行 に伴 減 財 第三者も ・サー 政改革を で、 補完を 議 ピ 職 含 ス 会

> たい。その方向で加速して の低 進 答 べきだと思うがいかがか。 移 官 量 当 管する仕組みをつくる Lから が増 め てい 下につながる。 昨 年 民へ えて る。 よりその方向で 市民 へあたり 事業や事 本年 サー 「度も、 務を ビス いき 事



価

佐々木 惠二 議員

とあ ぼすことになる。 済 < 食 の問 応されるの や地 なれ 調 中 る。 理 で 平 ば、 域 成 場 振 美 3 22 興に影響 都調 美都 1 カ 年 力 所 度 理場 地域 所 教 0 学校給 どう 育 がなな する を及経 方 針 対

分な配慮が必要である。 になった方々に、 美 都学校給食で お 然 世



第20代 益田元祥

給食センター建設予定地の旧競馬場跡地

幼稚!

園の

場がある。

保

育

健

師

保

者 士

0

方が 保

問

県立

養護学校の学

知

識

を持

つこと

課

11 護

13

0

11

7

正

L 障 は、

乳

幼

児健

診

0) 7

早

期

発 発

見 達

K

障

0

つが

17 17

機

会や

育所

むか。 対策

発

見、

早

こどう

取 期 児

ŋ 療 0

組育

達

が

早

いきたい。 ても様々な手段を考え 0 地 域振興施策に

# が 7

ではないか。

聞

Ź

支援 校 問 n 0 就 学前 てい 活動 啓蒙活動 達 か など、 ない にわ 障 が わかる事が多いいは、小学 発達障がい や学校療育 まだ充実 市 として

い今て後 0

給付 者福祉対策を 成は非常に低 民間 は とし Ą 行 がいが 手 参 必 就労支援 厚 障がい者就労、 7 之要であ て研 В 加 0 いる。 を積 型事業所 0 充実すべ 修 そ 障がいいれに比 会等 る。 極 的 き 0 13 市

円 日当たり、 は、支援法に基づき1人1 答 会参加を考え、 11 人月一万円 民間 者1人月 Ą 就労助 い者 В 五千二百七十 型 事 0 五. 成は、 そ 方 千 業 イヤの 円 0 所 重度 で 他 給 あ 障 付

> る。 円 を設ける。 の対応とし 答 が 育 問 から二十万円に改定す あるのではない つき検討して また、 補助 保育 対 今後対応する必 て、 基準額を十五 園 て の 複数受け入れ 補助基準 障 新たに加 いきたい。 か い児 保 算 万 要 が

を行 < 保育の補 か。 助 後児童クラブに比べ つてい 運営に苦慮してい 0 市とし 1 充実が必要では が担と同 人1日あ 一十八万九千 助 して独自 額が る。 額 新 かたり 市の の負 の支 年 円 度 る。 低 放童 Ŧī. 13 担 子 な

補

加え、 を聞きながら 現状運営が厳しいことを 事業の充実を図っている。 算で県負 分三百二 てお の上乗せの助成をし、 b) 検討 今後、 事 対 応 情

百



う 安達 美津子 議員

# 市 長の政治姿勢を問

果が表れるのは、 失政を修正するため、 う考えるか。 明日の命を守る方途をど 上も先の事である。 問 中で市として住民の今日 しているが、こうした効 学部定員を増 負うところが 々な医 日まで国 師 療費抑制 不 が 足 多い。 加するなど 進 0 8 10 政 てきた 因 その 年以 玉 策 は、 医 は

を通じて、 るので、 は最重要課題と考えて めて要望していく。 万円計上されて 「療対策を進める。 テレビ事業の電 国に対して市 新年度予算にケー て、一千三百八 22年度もさら また直 いる 柱共 直接も含 長 医 会等 架 痻



ケーブルテレビ局舎建設予定地

ら貰えるの は後で萩ケー 事 期 間中 0) b ブ 0 ル な か

ないものは れ問 費に含まれるのか。 0) 市 てい が支出しなければなら 当 含まれていない 一初の 本市の負担となる。 ない れ は、 何 もので、 事業費に含ま か。 当初 0 今後 事 業

配置も必要になる。 行 用 システムの 政情報を流すので職 経費が発生する。 公 共ネットー 導入経費、 ウー また、 運 員 ク

答は問 検 ス 討 テ 課 4 題 経 な 費 0 で、 0) 金 金 額

は言えない

### て 学替 校 替えについ 給 食センタ I の 建

校給 調達をするの 託する際という書き方に 問 なって 者 入は 食会が食 へ の になって 学校給 本 る。 説明資料 計 画 か。 以材調 どこが食材 いるが、 では 食 会が行う 達を委 では 食材 保 学

給食 るよう、 達 する考えである。 0 学校給食会が食材 7 安全性が担保でき 学校給食会と今 学校 調

導 Ш 表 問 入し 地 示 流 まっ する F 域 フー きだと思う 向きに検討 V きた環境教 0 地 認証 イレージを導入 消 環境 旅館 ドマイ 0 いうの 問題 学校 仕組 制度 や飲 V こしたい 教育を進 総食が を含め 食店 を高 ージを み作 なら、 1)

事 地

域情

報

通

信

基盤

校給食調品 か。 食数が減 の問 使用することができる 0 7 6年 0 規 模だが、 1 一後には 人になる見込みだ。 H 少し 理以外の目的 大 5、 生徒数は3、 た場 供 用 0 合、 開始 0 学 食 0 12 L

さ

随

Š

問 0

円は決定金額

か。

恴

世 料

いな

五千万円 土地 動きも 財源とな る必要があると考える。 外での活 払うのか。 やって土地 答 構 あ 造 って 用も る。 で、 0 改 開 取 革 内訳 いる。 今後 学校 発公社に 得 特 費 区 が一 が四 検討 公給食 とい どう 支 般 億 以 う す

ないかと考える。 分割支払ができるのでは 答 公社との協議 0 中で、



守 議員

中島

億 問 子百. 本事 九 業は、 +五. 万 円 総 額六 にも 及 +

> を残している。 不 本 膨 契約 大 分さなど多く 市 な 良 業者 から 事 への 業 定の不透 つま 選 で 事業説 定 あ に絡 づ る 0 疑 明 明 帯千

示し、肉の肉 後、 た場 b 組で放送を予 点で具体的に自主放送 市 るのでは ることが のは何 民 加 提供 入率 内容を早急に市 が懸念してい 合、 理 ない 市の 望まれる。 解と協力を求 しようとする が計画を下 負担 定して かと多く る。 が 現 61 民 増 回 K る 番 時 8 情 今の え 0

って 決定した ブルとよく意見交換 必要があ 民 答 定することである する強い ての全存 兄の意向 体は いる。 本事業は、 るの を反 運 決意のも 在をかけ 基本的 )営事業者 一映し で、 市 て実施 萩 7 には とに 長と が ケー L 13 が < 7 市 決 放 行 L

生 市 中継やグラント 県立大学の 主 催 自主 0 放送 講 演 特別 会 番 0 組 ワで 講 中 13 継 義 例 対 0 0 え

できる

0)

計

一画を進

8

る

こと

が 育

が 問の 応を考えて 7月額 中に入れたい。 金案 当初 千五百円、 用 線 いる から 0 を 使 般 メ 0 ニュ た生 視聴 共

を今後さらに強化したい なけ 全庁を挙げての まだ決定ではない。 事 ればならない が 22年度 内に 体 が 制 完

# 推 画

果給食 した授 から始 給食を食育の場に位置 名 問 ける動きが強まって などの効果が 日現在で全 なって 状の栄養教 の配 関する専門 栄 いる。 まった の食べ残 置 業ができる 養 が進 国で2、 諭 、論数 み、 知識 制 出 昨 は で、 Ĺ 车 度 平 で食 その ことに を生 で、 が 6 4 成 いる。 学 減 月 17 0

結

0 1

る

校

施

政方針を

問

付

諭 だけでなく、 本市 の場 合、 す 栄養 ベ 7 0 教

会を通

じ

7

り、 する指 校教 0) 大きな 事 員 問 合 画 を進 題 0 13 た食 は起きて な 8 0 7 7 13 関 お

1

中

る益田 り、 りを提案する。 最 地 他 問 1県の 大限に得 元女性農業者の協力を、 給 地 独自 食納 事 産 例 地 0 ることが を参考にした 入手法として、 消 仕 0 |組み 推 進 でき づく K ょ

たい。 入シス さんの知恵をいただい 益 田 5 関 风係者の しさの テ 4 0) 構 方々の ある給食納 築に 努め たく て、



か

食 年

平谷 昭 議員

り間間 裏 れ ば、 付け 0) そ 政 子 策、 であ 算 n は 13 る。 活 自 必要なお 動 治 言 計 体 14 画 0 換え であ 市 金 1 年 民 0

と予 認識を問 織 市 · 算 の でも をコ 関連に ントロー あ る。 長が自治 施 ついての 政方針 ルする 体

いる。 して、 本計 基 0 示 将 本構想のほかに、 する実施 来像を具体化 議会の 画 及び 策展開を図って 議 事業 計画を策定 決を要する 計画を する基 構 想

まえた取り組みを、 応じる施策の重点化を踏 る事はない。 お ると考えている。 政を執行するも 皆さんにお伝えをし、 ける視点もこれと変わ 施 予算という形 政 方針と予算 その時 で市 0) 編 施政 であ 々に 成 民

#### 域 情 報 通 信 基 盤 整備

ない事実である。 0 なる経過があろうとも、 民 事業は引き返すこと 決定を得た今日、 業で導入までの調 への説明不足は否め 域 情 報 通 信 しか 基 査

> ため、 業総額と本市 できない事 たことも事 について 課題と対 共通 問う。 認識 業へと変 財 実 政 で 策 を得 あ 0) る 影 事 貌 る

加入予測が不十八元の事業 民の皆様に であり、 とが一番 いては、 にご理解を求めたい。 り返し行 充分に伝 に事業決定したため、 が ている。この 答 不十 懇切 「課題と対 -分であ がであった事、加 庁内の推進体制 の課 わっ に事 1, 丁寧な説 解決 てい 業の 市 題と認識 -分なま 策 民 前 いのため 7の皆 ない 目的 周知 12 こが 市ま 様 と 0

育に保

育

園

は 学

加 前

配、

稚 教

同

C

就

0

幼

には何故

ない

0

か

は

る。

± 1

袁 30

0 年

付金が約 で賞 年 億円、その ら 計算すると、 え置きの ている。 疎 の影響は、 **峰債が約** 度二億 34年までの9 事業総額と本市 元金十九 還する事 過 十 兀 千 事 財 9 疎 九 +億円 億円 万円 業費約六十 平 K 債は3年 源として交 年 になっ 億 成 -間で、 . 償還 だけ 計 12 とな 財政 円、 26 年 7 年 据 で 0

> る。 交付 実質公債費比率を0・5 財 30 イント る % 源 部分六千三百万円 税 確保が必要となり の措置が 押し上げる事に な り、 その があるの 70 % で、 ポ 0 は

# 風

との 治に 問 国政を中心とし ないと考える。 機感を持たなけれ 我々行政職員がそのよう する批判でもある。」と県 の変化等は、「自分達に対 答 がれるが、認識を問う。 募る状況 治体政治や行政にも な危機感を持てるか、 の幹部が語られていたが、 5 行 れ、日々市民の不信感が :政の 対する批判はイ 信頼関係の構 最近のいろんな政 にあっ 批判だという危 を中心とした て、 ば 築 なら 市 7 が 向 政 治 急 民 H 自政



具体的

にな対応

宗男 議員 福原

しな

0

か。

精神保健福祉

土

を配 専

置

b

事

実で

あ

る。

門

家

限

界

が

生じていること

#### 殺予 防 の 対 策

が

61

者対

策

の

充

実を

していく必要がある。

門家を含め配置を

検 13

討 か

自

田市をつくっていきたい きな問題と考えてい といけないと考えるが。 問 環境が求められるが 生きていくことが ることなく、支えあって 敏感に感じ取り、 域で安心して暮らせる益 市としても取り組み、 自殺対策には、 取り組みとして捉えな 社会のありようを変える 込まれた末の 経済状況が続く 日 社会での生き辛さを 本社会が抱える大 死 新年度から 中 Ĺ であ 孤 できる 17 追 立 社 会

内部に連絡会議を立ち上 幅広い庁内外のネット ク作りから取り組む。 健康増進課を窓口に、 に困 る。 地 難 す う、 のはは、 問 望していく。 ではない 後の課題であ 市 17 保名協 以 答 人たち 独自 人い 育所 力を得ながら 上 0) 围 是正できるように 加配措置ができる 障 ( 4 O「きのこ 加 ロの制度は 数 12 がい る。 実績があ 65 配 か。 人にな 県に要望す 0 を 園、 児保 幼稚園には本 L てい なく、 保育 る。 児童数は 育

べき

ょ

要

今

なって いる。 月1日から就労者 就労の場 きの ウス」 り、 21 13 ゥ 般 で b

15…… 2010年

が念頭にあったか。 者多数雇用事業所の 策 問定 床椎茸 考えていた。 エリンギだけで 22年2月で1団体 0 いては、 の栽培に椎茸農 用事業所 振興ビジョンの のこと 障 が 11 3

いくかある。 開する考えはないか。 化をはかる上でも重要で 家と連携し つながる。 いきたい。 雇用の 幅を広げ経営の安定 今後どう展開して 市として応援 事業拡大を展 場の確保にも 取り組むこと

# ス廃 止 の

算にも 廃 運 問 共交通に対する認識が 止 5 を発 石見交通と大きく違 円余を計上し ず、 値上 石 地 見交通 地方バス路域 表し 助金 げしたにも 方的に した。 は、 億 ている。 三千三 当 線維 16 路 12 初 か 月 持 予 線 か

> のないまま通知を受けた止については十分な協議 向 2 月 うのではない て撤 10 日 まま通知を受けた。 回 K の要望を行 石見交通に 出 議廃

> > と確

認し

なが

5

協

議

す 域

答

芮

13

ろ

ろ な地

プして

る必要がある。

視察の状況は。

期券を買た。 議を経 改 ではないか。 V 1 る。 正 口 病院 を国に て手続 事 って 前 K 対 に 通 象 され 要望すべ う い路 利 る 線 る との には 用 者も 法協 週 定

市長

の施政方針につい

て



卓雄 議員 林

バス路線開通松ヶ丘病院行き

自 問 は認識している。 い関 者をどうするのか。 周 分の生活がおぼっ 辺 処地域の Щ 間 地域の 弱者、 重

> 物件をインターネ 状況はどうか。

ツ

1 押

差し

答 を問う。 問 Ш でも、 ては 今年 間 獣 22 年 する中で、 集落の維持どころ 市長と語る会を2 変り て下さ 地 対策の文言はない - 度の 申 度の 農業の振興と有 域 上し上げ 者、 0 継続 今後 いと言 施 若者、 女性を大 政方針 事業 7 0 か って 高 施 要 13 ょ な 年 齢 な か 性 K 策 0

況 53件、二億七千 ット公売については、 十万円だ。 売してはどうか では 地視察研修も 20年度決算で、 ない。 滞納 非常に経済 イン 額が ター 減 兀 1, る 百 な 状 ネ 状

人材育成が重要で

市

として

ツ

ク

T

が

ブ

で

あ

ŋ

重

後遺

方針の みを重ね いがどうしてか 農家自身による取り 大転換であるが 得補償制度は、 基本の 主視した、 中に入って 計 にあ 農政の 別所 農村 施政 11 な

農業政策をやってい 補償については、 は入れなかった。 してもしっかり捉えて 継続事業につ 始まる戸別所得 市と 今後 13 く必

5

研

究してい

問

コン

ベンシ

彐

誘

致

区から提案いただきたい く必要がある。 について問う。 要がある。 総務省 市 税の滞納額 増員は 0 集落 ぜ ひ各 支援 L 収 T 地 13 員

松ヶ丘病院職員駐『

職員以外の駐車はお断り致します。

松ケ丘病院

医療法人正光会

え 公 納 益田に、 する。 業である。 していただこうとする事 る 促進事業を問う。 大会の が、 観光客だけ お金を少しでも落 中 細はこれ 主 玉 一催者に助 大会規模以 から でなく、 成 詰 を 上 8

と助 7 進 問 病 院と は ワクチンの供給体制、 成につい 7 ヒブワク 菌性 種 11 0) る。 連携は今協 が 高額 髄膜炎の6 て問う。 助成に チン であ 0 った りい 議 体 割 制



林野を除草するヤギたち

症 ま 実施をす たは 死に 至る 0

で

#### い中 て Щ 間 地 域 の 振 興 に つ

を地区 り ル中答 に問 にな 域 振 は とし 西 で 興 人 分 13 地 く援研 て問 ま 話 セ づ 7 域 < 条 ね ン 11 づ 検討 る。 修 合 タ ŋ て、 • 生 1 美 で ŋ 13 して は、 、ある。 八濃をモ を中で 支援 行 地 良 域 政 小 心 b 41 づ 事 < 所 13 地 デ 業

#### り安 つ 61 安心 な ま 5

問

周

辺

地

域

の

将

来

問

青

パ

1

隊に

0

13

7

間

う。 L 12 S あ 立口 答 る益 青 行 た。 銭 ル 0 的 1 隊 7 田 田 支 隊 助 連 13 市 市 援、 る。 絡協 成 が 防 青 増 犯 は 色 える 協 事 市 議 防 会に対 務 会を設 面 内 犯 よう にぜ 局 的 ノパ 支 で

問

総

合

振

画

0

中

で

立ち 向 ピ 疑 を 答 ス 問 訪 上を図って 提供 介護 ゃ 問 介 し、 不 護 者、 + 満 + 1 を 利 1 聞 ピ 行 用 ビ ス き 者 ス 政 0) 0 か 0 質 間 サ ら現 0 12 1 の場



河野 利文 議員

性が では、 と考えて まちをつく 答 をどう考えて : 光輝 それ 第 5 周 いる。 ぞれ 辺 次 0 地 総 W 0 域 合 7 流 地 11 の振 0 将 H 0 域 興 か 田の 来 計 れ ば 舎 個 像 画

\$ にどう考えて を 地 域 答 関 を はする基 作 域 確 自 で決 治組 立 目 中 標 Ш はこ 織 本 間 8 112 5 地の 目地興 13 よう こと 域計 れ域 れ 標 る 0 か は る 0 こと なも 仕 具 推 が ら。 大 組 体 進 事 はの地 Z 的に

13

7

問う。

Þ

ア

F は

バ

イ

ス 1

ノをリ

する

仕

行 芽

政

 $\exists$ 

デ

イ

ネ

1 る

を

育 な

7

る

13

な

13 な

0

が

ŋ

地

域 0 が

自 危 冷

治 機

0

る

意

味

では

政

たく

そ

ること

が

地域 行

感

介護

相

談

派

遣

事

業

L

てい

考えて K と で 向 地 答 問 あ つ 域 総 を見出 心合支所 11 振 公約 て 22 年 派興全体( 後 0 0 0 地 実 度 役 0 X 行 体 中 割 セ を 制 K を ン 含 どう は 整 夕 8 方 備 1

7 と 域 答 0) 問 ようなも Vi のことは う 民 組 域 館 自 織 0 地域 等も 治 をイ 組 含め メー で 織 決 と ジ 8 7 は る 地

をす なく < か何 域 組 5 慕 問 議 会に 5 け 自 0 な 0 N 安芸高 なると 意 で たからこそ n 7 治 13 きと思うが Ō 自主 して るような 組織 味 地 通りであ b る。 域 **b**, 的に を な づ 61 田 う つく < 形 Vi 市 0 だけ 働き りに 組 行 危 誰 0 る。 織 時 0 政 機 b Ш か が 間 7 0 取 13 感 住 根 頼が あ H を 地 ŋ 0

みに ある 変えて

引き X 資 カ セ ンタ 学校 源 所 バ げ ス は で 路 1 地 再 0 線 域 整 か 編 0) か 備 食 5 P 調 支 5 廃 な 0 玾 職所

いる。 で賄 公共 る 0 が 不 安は えと 交通 中 大き 13 Ш 13 う 間 0 Ź 方針 食 地 € √ な 調 域 7 \$ 5 玾 0 が 止 無く 0 場 7 住 出 場 地 員

設 ても 2 カ 所 方 など な 建 民 7 域 公の の地 14

くことが 大

な を 11 真 か 剣に 1 力 考える 所 場 合、 べきで 2 は 力

明限所答 W 生 責任 غ ŋ 0 涯 示 場 学 を果たす。 合 習 0) によ 協 市試の とし 算を る 7 可 づ 0) 能 み < 説 な

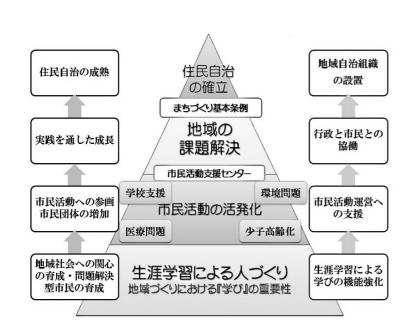
### づく 市 民 働 の 仕 組

か。 状 生 況 涯 はどうな 学 習 基 本 計 7 画 0 Va

策 問

定

る



生涯学習を基盤とした仕組みづくりを

寮は建て替えが

必

協

議中である。

清月 あ

在

4つの

が

n

方向

性とし 課題

7

現

て問う。

と 年 幅 予 度、 定だ 遅 できるだけ 0 成 ったが、パ 21 年 度中に策 ・早くま 平成 業が 22 大 定

を全庁的な戦略とすべき ŋ 学問 13 と考えるが 13 習を基盤にした人づく 住 大阪狭 提案を活かし全庁 人づくりの仕組 組みを機能 Ш 市では ださせて 生 Z 的 涯

取り組んでいきたい

ム益

清月寮」

田市

立

# 小 中学校の 将

朽 問

筑

後

30

年

が

過

ぎ、

老 0)

化とスプリンクラ

 $\mathcal{O}$ 問 0 各地区で どのような考えを持 学校 再 の説明会を終 編 実施 計 画 案

望をした。

度にわたり 期がきた。

市

間が同 う い良 答 あ う い教育環境を整えると するのかという視点を 子どもにとってよ 視点と地域振興をど 解決 L 7 13 く必要 0

し、

土

法

は で話 今後 し合 学校再編推 見交 0) 換 スケジ 0 内 実 施計 進協 容を ユ 1 画議踏 ル

> として を進めたい。 納 得と合意に 基本的には、 よっ 7 再

> > 民な

民営手法が良

と考

施

で、

後

運 17

営

は



心

安全

が

確保されるこ

地

元

要望も踏まえ、

安

とを最優

先に、 を出

11

くつか

り、

土地 0

選

定につい 床が必要であ

ては

20

床

増

 $\bar{O}$ 

80

える。

待機者が多い

ので

# 長谷川 昇 議員

護老人 建て替え ホ

 $\mathcal{O}$ 

候

地

して検討し

た

新 合整備事 規 県営 中 山 間 地 域

総

問 ほ 場 整備事業に 0 11

との回答をいただい 設置等で建て替 た。そのことに 容として「民設民営、 検討を重ねた方針 会として建て替 人が決めること 地は法人が 場所につい 本市 地元 長 つい 確 より こえ要 自治 に 2 <sup>1</sup>え時 ても 保 内

養護老人ホーム清月寮

揚げ 職員を配置しなくてもや のような人口、 なところから て行うべきでは。 7 ばできな ・地区の いると聞 いる。 地域の 益 田 · 行政 実情 吉田 職 K サ 員 地

業は地域 0 益 地域  $\mathbb{H}$ 振興、 で考え地 公民 域 館

連

携

思う。 がない

産

 $\exists$ 

0

推

進

はない。

回と同じ され 担が 事業 7 備 .様な地 いるが、 費 業 0 の 5 では 中 元負担、 Ш 今回 % 間 で 地 地 か。 施 元域 無 b 工 前

定し よう 概算金額が出た段階 5%であった。 前 0 口 ) 負担割: 努力したい。 た 現 は 61 在 市 検討 10 できる限 合に近づ % 中である。 今事 受益 業の り前 で決 け 者 る

き揚 から 振 興 の セ ンタ 正 規 職 I 公

民 地館 区 の

中間

産

ビ

日

ン

で、

: 資源

活

用

型

産

興

触

森林 一業の

業 ĸ

b

知

n P 振 を ジ

な

11

がは

成 いたが、 年度 世帯 実 1 合 を 施 引き ビス 本 わ 数 可 市 せ が 能

ら去り

にさ

n

だけ

互

13

0 n

たの

だか

タ

1

吉田 職員がい いということ は 本 X 庁に なけ は、 て来た。 とが多 今まで れた循 だと思うが、 ら産業支援 関係が離 ゆる物にも言えると思う。 くところから始めるべ < 言 前に 0) 11 これはもう他の 過 50 年 興 11 同じ ぎか る。 いように ح ジ 0) n 置

テー セン てい

ブル

K

き 着 行

どうか。

あ

5

答 行政サービスは、市が行うべきと思う。 供すべきである。 ちろん市として全体に スは、 ス 提 は b



山根 哲朗 議員

とて 化 協 津 関 L 考える必要があると思う。 1 思 ず セ 川 にしてさまざまな 11 11 設置を予定している オマス利用推進協 は を を くことが大事である 会や高津 7 どうしていくかを 7 育 タ 課題を話し合 つのテーブルに む Vì 1 水のえ る。 Þ 等 センタ はり 川流: 0 びば清 家 く予定に 今後は 寸 林 づ 1 体 こくり 業に 活 流 を が 議

# 介につ

命問 私 る にて いと考えてい は 確 数箇 公給食 る。 認す 地 時 代を追 域 校 長を取り上が振興のと 校給食 |所設置 る必要があ 給食 そのことは って 0 の施 ところで 役割 が望まし げてい 変 設建 互化 る。 や使

競 す 争と そうすると地 В う Cと分け 0 か まる 域間 たと

> 大きな仕場合、一つ 意味 うの とを考えるべきでは 0 提起し導きだ 将 の域 方が今 か n は での 的 ぞ 力をも 難 な 競争 しく 0) 組 本 0 Z 施 市 本 、なる。 けと を作 設に たら を を考えた 市 夫 行 す あ いうこ ると る。 政 対 る な 側 11 L 11 場 が 7 は そ 41

\$ 将 に超えて 今の るように思う。 え方にな 式だろうと が 0 くて危険 比率は警 的に見た時 あ 答 る 観点からい 来の子ども 同 財 大きな課 てるの 様であ 13 基 政 は 本 いる ライ 状況 る 戒 1 は か。 る。 に、 思 ラ 0 力 Þ ったときに、 L ンを イン う。 題 たちに責 を 所 は は としてあ そう言う 財 経 中 ŋ にはるか では 積立 常収 政 本 2 自 . 13 市 う 再 長 力 校 金 建 な 支 期 考 所 0 方

> C 答 0 対

評

価

1

率直に厳し



# 施政方針につ 7 問 う

理

職

優先順 する所 項 計 Ħ 益 画 評 0 田 12 位、 価 感、 重 市 対 46 点 する評 行 決意を問う。 取り組み 課題評 財 В 政 評価 改革 価 価 27 推

9

進 問

点 健

康管

民 位として事務事業 直 上 福 見 対策と考えてい や事業仕分けなど、 す 利 な 0 必要 厚生 目線 0) 優 と 宿 先順位は地 がある。 泊旅費規定等 半額で予算を 行革は で 行 って 難 の見 優先 Vi L 域 医 市 直 順 見 計

であ 地 える。 医学生は 域 医師 推 薦枠 市か 不足対策 匹 いらの 0 军 現 生 奨学 は急 状 1 を 名 問金務

1名、 年 生 2



大久保 五郎 議員

今回3名合格と

%

達

成を約束

超過勤 況である。

務削

れたが

その結

果 さ 減

問 る。 で 22年度より管は出した。職員は認めない指別にない。職員を出した。職員のない指別にない。職員のでは、職員のでは、職員のでは、これので 市 財

平成 する目 定費 となる見込みであ 分でも運営できる である。 員の定数につい 費 24 年 カットし 97 /%を 職 標を示され 定期採用3名で、 · 4 月 員半減」 93 政 % で で4 かな に固 、て問う。 は公約 仕組 る。 61 た。  $\frac{4}{7}$ 中 半 名 で Z 人

# を 問

示 答

白

を作

書の

中で改善点

L

配

布

た。 書概

学力向上。 寰版,

を 成 を

て、

学

校教育

研

刊 具体 が 明 的 な取らか 校 教 り組 にし 育 H た課 Z 書 第 題 0

究会などで活用して

子どもたちの育ちを支え学びを発実するために 益田市の子どもの素顔 学校教育白酱 第2刊

示を出した 超勤は認え

学校教育白書

地 0 b を 13 定着に の学 域ぐるみ  $\exists$ 7 問 指 教 員 習 習 0 授業 0 | 慣と読書習 家庭  $\Diamond$ 教 **姓では子ど** 地域では 育 力 0 ス 向 テ 慣 上

いて問う。 本 問 2 4 市は ていると の構築を進 県学力調査結果か 県の 達成率を下 いう現状に 心める。 5 回 0

るの適 を設 答へ取課問 の対 連 方、 帯 が 多く 0 員と家庭 策について問う。 0 度 促進が大切であ 電 で 子メディ あ 生活習 る。 育審 保 朝 護者 ア等 議 食

**答** チラシの内容に問めがあり、改善を指摘の対応について問う。 実誤認がある。各学校 いままった。結 の 校 一 6 1, 1, W セ を否定するチラシ配 る 成 食問 給食 ンター を考える市民の会」 学校給 で チラシ 、ある。 実施 のチ け いとした審議、答申 で 果的 子ども達 0) Ź Р 正 配 ラシが小中学 的に訂正されな 改善を指控 よう いっ は、 食あり方検討 布された。市 の内容に間 しく FI手法によ 0) 新学校給食 推進は 文面中事文面中事 説明 各学校 布は やむ 摘



## 施政方針に つ (1 7

外の視っ とに22年度施政 くられたの 等5つの 市 市 民の意見なの柱を示し 長と } か。 を示して ーツプ る会や 方針 で声 セー をも を 11 市 ル 0 る ス内

問

無料クー

ポン券配

1 布事業

の実施を継続するの

か。

皆さんの て反 組みは、 映 して 声 基 を聞 本 61 的 12 市い 民 取

施設

方針

0

新

L

13 0 ŋ 答

公民館

如のあり

方に

こつい

7

地区振興センター

と

の考えは

問 市民満足度なる。 る。 同時に、 市役

調べるのに ンケート調 てはどうか 定の .調 総合振 査は必要と思 市民アンケー 中 で 興計 市民ア 検討 査をし



永見 おしえ 議員

問 る乳がんと子宮頸 あると考える。 今後検討してい 女性特有の 健康ますだ市 健康で長 益 げ た健 生きを 田体 が < -操を作 21 等 で が 必 康  $\lambda$ んの 要が づく 0 目 あ

度も実施して ワ 券を配布する事業は 答 接 ク (種の チン 検診 子宮頸がん感染予 0 0 助 成につ 周知とワクチ 無料クー 61 11 . て 問 ポン 新 防 年

ワクチンで命を守る

足度を

の問 体 験 学習 0 中

国等に かり 報やホ 成は検討していく。 ワクチン接種 周 有 対しても要望して ームペ 効 知していきたい。 性ととも の料 ージ : 金 の でしっ また、 助 広

成につ 炎球菌ワクチンの 問 をみながら検討してい についても今後大きな検 あるといわれ 細菌感染の予防に 接種することで、 討問題であり、 ヒブワク 小児肺炎菌ワク いて問う。 る小 チン 玉 児用 公費 効 と 0 動 チ 果 両 度 く。 向 助 肺が  $\mathcal{O}$ 方

交換をしながら考えて 大きな課題である 地 域 の皆さんと意 見

かかわりを学べる事 ほし 11 がい か で が か。 業 と

> を豊 して推進したい する気持 かに 体 いし、地域に貢献することで生ど ちを育む 事業 献活

問う。 イ アを 可 書 何 教論とボラン 人配置される か テ

う。 法と ランティアを配置する。 その他の学校には図書 答 小学校12校、 周 市 <u>V</u> 年 知 図書館の活用 活 度 動につ は、 中学校 司 いて 書 4 Α 校、 問方 ボ

う。 ケー 食育 問 大きな事柄になると思う。 の発行を検討して 答 ブル 0) 学校給食を活用した 新 たに 重 要性 テレビの活用も 図書館だよ につ 11 いる。 7 問 ŋ

て四四 答 る必要があると考える。 本柱とし 体 学 育 校 に、 教 育 食育を加えの知育、 て位 置づ け え 徳

## 司 書 Aとは

対 6 務する司 象学配 級 置 以 基 上 1 進 書をいう。 0  $\exists$ K 学 5 沿 時 校 間 を

澁谷 議員

## 地域 情報 通 信基 盤

くべきではないか。 に庁内体制を確立し 用を図るには現時点で既 問 完 了するが、 事業は来年3月 有効な利活 てお

考えて に今後 利 市地所 た 活用 民に 域の に光を当ててい 地域で頑張る人や場 いる。 お知らせできると 実情を CATV で 向 0 かり取り組みのけ方内横断的 市民と共に く 等

からの増、 30 問 確認 れる % を b 含め 容易なタッチ る 本 ケースの増が予測 犯防災等、 孤 P 超えた。 市 所付合 立、 行 安心安全が脅か 奥 0 出 政 高 地域医 連 雲町では安 独居世帯 齢 絡、 いや情 バ 障 化 ネル 上がいかの 率

> 病院、 援等にも今後の導入を検 護医療の支援、 会議が考えられ、 答 貸与している。 端末機を必要家 討できると考えている。 採用してはどうか。 テレ 地 学校等とのテレ X ピ 電 |振興センター 話 を 子育て支 本市 庭に 在宅介 用 でも 無 し、 E 償

#### 読 活 動 の 取 ij 組 み

書活 判断、 年期の読 成が重要課題とされ、 問 きくかかわると 活 動 動 0 教 表現、 0 育 充実と共に 持 方針 書力の育成 ;つ可 活 で 能性 いう は、 用 力の 思 が読売 言 少 育 語

である。

本市教育力に課 めて高 表現、 上の大きな原動力になるは人格形成と共に学力向 読書習慣 本の子どもは思考、 答 Р І 教育白書でも学力と 活 題があるとあ 庭での読書活動 と報告された。 の相関関係が極 用 S A 調 力を問う読 査 でも 0 断 日

いる。 冊数は倍増の 書を置く学校の 童 アを置くことで小中学 置かれた効果 の8割で図書館利用 生徒数が増加した。 効果が

ス化 立 図 校の図書館をデータベ 答 公民館の図書館、 る管理システムの中で う位置付けるか。 1 ス化と市立図書 学校 書館 į 平成23年から更新 一元化を検討 0 図 美都 図 小中 館 書館 を 1 学 شلح 中 市 す

巡回 であ を約1、500冊搭載して 保 答 の採用について問う。 学校を巡回する図書 問 査中である。 中 育 Ш :所等 広い 訪問を想定し現 間地 るとの考えのもと、 図書バスは大変有 年 面積に散 域 間 の小中学校、 480カ所 在 バ 在 す 調 効 ス る

学校図書 館 司 書 を

司書及びボランテ 年間貸 出 0 7 出司 児 校 1

書 デ í 夕 ベ \* \*

\* \* \* \* \* \*

問

\*

\* \* \* \* \* \* \*

> 編 隼 後

記

2年度がスタートした。 [企画 新たに 部長、 副 市 教育部長が着任され、 長が就任し、 総務省、 まさに新 文科省からそれ 体制 での平 ぞれ 成 経

くなっていると言える。 よる伸びに過ぎず、 ナス3億9、 10 3 7 % 今年 ・度の予算は、 9 の伸びとなっ 0万円 平成 本市の置かれている状況は、  $(\Delta 5 \cdot 70\%)^{\circ}$ 21年度と比較して2、3 たが、 自主財源は前 依存財源 年度比 更に 0 の増 加に マイ 万円 厳

揚げ、 行う必要がある。 的 つ の運休方針など、 な戦 た。どれも早急な対応が迫られる重要な問題ばかりだ。 そのような中で日赤の どうしても対処療法に追われがちだが、一 中山間地域のバス路線の廃 略の下に原因療法として、 市民生活に大きな不安を与えることとな 産 科医 不足や脳 官民一体となって着実に 止 突然浮上した大阪便 神経 方で、 外科 医 中長期 匹の引き

う益田産業振興センター ンが昨年10月に示され、 本市産業の新たな成長戦略として益田 が設置され 今年度は、い た。 よいよその推進を 市産業振興ビジョ 担

輝かせる「民」 口となる。 できるのか、 民の力が存分に発揮されるよう、行政としてどんな支援 「民」の力を輝かせる「官」の役割、 の役割。 事業者と一緒になって考えていくための窓 官 0) 力を

と見守っていきたい。 が達成されるようしっか 中長期的な視野に立 官民それぞれの良さが ビジョンの目 文 ŋ 標 0

\*

• 編 集 委 員 

副委員 委 委 委 委 員 長 員 長 松 安河 永 中 原 達 野 見 島 義 美 利 お 津 し 生 子 文 え 守

この議会だより は再生紙を使用して 61 ます。